

- 近年、温暖化の影響により、単収・品質が低下。水稻高温耐性品種である「なつほのか」、「にこまる」、「つや姫」の生産安定、作付面積拡大を推進。
- 平成30年度末、水稻部会が設立。水稻部会等を対象に、**展示圃設置、栽培講習会、現地検討会、米試食会を実施し、生産安定を図った。**
- 令和元年産水稻高温耐性品種の作付面積570ha。**昨年度から、水稻作付面積が35.5ha減少する中、「なつほのか」を中心に高温耐性品種は78ha増加。**

具体的な成果

1 水稻高温耐性品種の作付面積拡大

平成30年度より導入された「なつほのか」の作付面積は、前年度から約2倍に拡大した。

表1. 県北地域における水稻高温耐性品種作付面積の推移 (単位:ha)

	H29	H30	R1
にこまる	401	395	402
つや姫	24	24	14
なつほのか	0	73	154
合計	425	492	570

2 水稻高温耐性品種の収量・品質向上

■ 早期水稻

「つや姫」の1等米率は43.2%と本来の品種特性を發揮できなかったものの、「コシヒカリ」の1等米比率32.5%を上回った。

表2. 令和元年産早期水稻1等米比率

等級	つや姫	コシヒカリ
1等米率	43.2%	32.5%

■ 普通期水稻

「なつほのか」、「にこまる」どちらの品種も、本来の品種特性を發揮できなかったものの、「ヒノヒカリ」の1等米比率を上回った。

表3. 令和元年産普通期水稻1等米比率

等級	なつほのか	にこまる	ヒノヒカリ
1等米率	18.2%	20.3%	16.8%

3 「なつほのか」食味評価

品種の食べ比べの結果、「なつほのか」が一番おいしいと回答した人数が最も多かった。

表4. 最も美味しいと答えた人数(回答数:22人)

1位	2位	3位	4位
なつほのか	にこまる	恋初めし	ヒノヒカリ
7	6	5	4

普及指導員の活動

<講習会、現地検討会、栽培反省会>

- 各地区水稻部会を対象に、栽培講習会、現地検討会、栽培反省会において、栽培管理技術等の指導を行い、栽培技術の高位平準化を図った。
- 「なつほのか」と「ヒノヒカリ」を含む他3品種との食べ比べを行い、食味評価を実施。



<関係機関との連携>

- 関係機関で、「なつほのか」の産地化に向けた推進方策等を検討し、県北地域水稻高温耐性品種推進マップを更新。
- 稲作情報のポスターを計8回作成し、JA窓口35か所に掲載。水管理、適期の病害虫防除、トビロウunca対策等の迅速な周知徹底を図った。
- 関係機関と協議し、ウunca類に効果の高い新箱粒剤等を営農ごよみに採用した。

<展示圃設置>

- 「なつほのか」の展示圃を各営農経済センター管内に1か所ずつ設置。計5か所設置。

普及指導員だからできたこと

推進体制を構築し、JA、市町、研究機関等の関係機関が一体となって「なつほのか」を中心とした高温耐性品種の推進を図ることができた。